

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 01 月 14 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	井上 漱太

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
熊本県、熊本サクチュアリ
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
動物福祉実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 11 月 14 日 ~ 平成 28 年 11 月 17 日 (4日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
野生動物研究センター 平田聡教授
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>動物福祉実習は熊本サクチュアリにおいて、主にチンパンジーやボノボのエンリッチメントをテーマとしておこなわれた。私はエンリッチメントという単語は知っていたものの具体的なことはほとんど知らない状態だった。</p> <p>ボノボ、チンパンジーのためのエンリッチメントアイテムを作成し、評価することが本実習においての課題だった。彼らにエンリッチメントアイテムをいかに長く使用させるかがテーマであった。</p> <p>私のグループは太い透明なパイプの中に餌を詰めたものを作成した。同時に餌を取るための棒状の器具も作成した。腕を伸ばすだけでは、パイプの中の餌を全て取り切ることができず、道具を使用することで全ての餌を取り切ることができる設計にした。</p> <p>それをチンパンジー、ボノボに与えてみたところ、比較的長くアイテムを使用した。良かった点としては、透明なパイプを使用したため、餌を直接見ることができ、長く引きつけることができたこと。さらに、単に餌を詰めるだけではなく、餌と藁、おがくずを混ぜることで探すという作業を加えたことが挙げられる。悪かった点としては、パイプのそばに置いていた道具を使用してもらえなかったことだった。道具には興味を示すものの、それを私たちの意図した方法で使用することはなかった。しかし、あるボノボが自分で道具を作成し、それを使用した。結果的に餌を取ることはできなかったものの、非常に興味深い光景だった。</p> <p>今回の実習を通して、エンリッチメントとは何かを考えるだけでなく、飼育下チンパンジー、ボノボの認知能力についても考えることができた。パイプに蓋をつけていたのだが、その蓋をどうしたら良いか分からない個体が多かった。さらに、蓋を回せば良いとわかってても反対方向に回してしまい、開けられないといったことが観察できた。今回の実習に参加したボノボ、チンパンジーは間違った方法でも何度も同じ試行を繰り返し続けた。私たち人間が試行錯誤し、色々な方法を試すのに対し、同じ行動を繰り返し続けるというのは新鮮な感覚すら覚えた。さらに、非常に直接的な方法を用いて餌を取ろうとするということも印象に残った。具体的には、押すという行動はあまり行わず、引く、つまり自分に近</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

づけるという動作が多くみられた。こういった行動を見ると、私たち人間が何気無くおこなっている動作や試行が、以外に複雑で柔軟性に富むものなのかもしれないと感じた。

エンリッチメントについての知識はほとんどないまま、参加した実習であったが、単なる知識で終わることなく、積極的に色々なことを考えることができた。実際に動物たちに使用されるということが新鮮で積極的に実習に取り組むことができたと思う。



作成した道具と班のメンバー



アイテムを使用するボノボ

6. その他 (特記事項など)

本実習において、たくさんのご協力をいただいた森村准教授、山梨助教、平田教授、熊本サンクチュアリの皆様に感謝するとともに、本実習を支えたいいただいた PWS に感謝いたします。